

第 64 臨時号

# 電 気 技 術 史

The History of Electrical Engineering

Newsletter

平成 26 年 5 月 7 日 発行  
(一社) 電気学会 電気技術史技術委員会

## CONTENTS

- ・末松安晴先生の日本国際賞受賞  
へのお祝いメッセージ  
鈴木 浩 P. 2
- ・末松先生、おめでとうございます  
大来雄二 P. 3
- ・末松先生の日本国際賞受賞をお祝  
いいたします  
奥田治雄 P. 4

## 末松安晴先生の日本国際賞受賞



写真提供 公益財団法人 国際科学技術財団



写真提供 公益財団法人 国際科学技術財団

## 末松安晴先生の日本国際賞受賞への お祝いメッセージ

日本経済大学 鈴木 浩（電気技術史技術委員会 委員長）

私どもの電気技術史活動でお世話を頂いている末松安晴先生が、この度、名誉ある日本国際賞(Japan Prize)を受賞されました。誠におめでとうございます。

日本国際賞は、1985年にはじまった国際賞で全世界の科学技術者を対象とし、独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、もって人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められる人に与えられるものです。毎年、科学技術の動向を勘案して決められた2つの分野で受賞者が選定され、末松先生は、2014年の授賞対象分野の一つである「エレクトロニクス、情報、通信」の受賞者として選ばれました。

ご承知のように末松先生は、光エレクトロニクスの黎明期である1960年代初頭から光通信の研究に取り組みました。1980年代始めには、光ファイバーの損失が最小になる波長の光を発生し、かつ大量の情報を送るために光を高速で変調しても波長が安定した動的単一モードレーザーを完成させ、大容量・長距離光ファイバー通信の実現に大きく貢献しました。この研究成果は、現在のインターネット社会には不可欠なもので、将来にわたって私たちの情報化社会をさらに進化させ続けるものと思われます。

授賞式は、4月23日(水)に東京で開催され、この週には、日本国際賞週間行事として、レセプション、学術懇談会、授賞式、祝宴、受賞記念講演会の各種行事が開催されています。日本国際賞は今回で第30回を迎え、日本人ではこれまで16名が受賞されています。

末松先生は、電気学会電気技術史技術委員会の第3代委員長を務められました。副委員長時代を含め1996年から

2007年までの長きにわたり委員会を引っ張ってこられました。私は、末松先生の下で、幹事、委員として委員会で一緒にしました。

先生は、この間、工技院産業技術融合領域研究所 所長、高知工科大学 学長、国立情報学研究所 所長とご所属を変われましたが、常に技術史活動にご尽力くださり、現在も多くの分野でご支援を頂いております。

技術委員会では、多くの新しい取り組みをリードされました。例えば、ニュースレター発行、ホームページの充実などです。電子情報通信学会会長を務められた関係から、他学会との共同作業にもとりくまれ、電気系5学会からなる技術史特別委員会も組織化されました。

また、世界的なネットワークを活用され、2000年に開かれた電気学会と米国 IEEE との共催で技術史を議論するマウイ会議でも座長を務められました。この第3回マウイ会議は、シンガポールで開催され、英国 IEE（現在の IET）、韓国、ニュージーランドからの参加も得て議論が行われました。ご一緒させていただく機会を得て、先生のリーダーシップぶりは大変勉強になりました。

また、同時に行われた IEEE-PES（電力エネルギー部門）冬会議では、Historical Development of Opto-Electronic Technology をテーマとする Commemorative History Session で、電気技術史技術委員会を代表して光通信に関する講演をされました。ご講演の内容は、「通信は光で始まり新たな光の時代へ」といったテーマで、通信が、「石器時代から石（半導体）の時代へ」といった内容のご講演は、ウイットに富んだかつ最先端技術のご紹介でした。

今回は素晴らしい日本国際賞を受賞され、ますますのご活躍を祈念し、これからのご指導を引き続き期待しております。



写真提供 公益財団法人 国際科学技術財団

## 末松先生、おめでとうございます

金沢工業大学 大来雄二（電気技術史技術委員会委員）

電気技術史技術委員会の第3代委員長を務められた（2001～2007年）末松安晴先生が、2014年（第30回）日本国際賞を受賞された。まことにおめでたい。大容量長距離光ファイバー通信用半導体レーザーの先導的研究が受賞の事由である。

英国が“Queen Elizabeth Prize for Engineering”を創設し、昨年（2013年）に第1回の表彰を行った。受賞者はインターネットとワールドワイドウェブの開発者たちである。これもまことに喜ばしく、ネットとウェブがないと日常生活にまで支障をきたしそうな現実をみるに、受賞は当然の感もある。

しかし、考えてみると（考えてみなくても当然だが）、ネットもウェブも今では大容量で長距離の通信回線がないと、ほとんど機能しない。「コンピュータ、ソフトがなければ、ただの箱」になぞらえれば、「インターネット、大容量回線が無ければ、デジタル徒歩旅行」である。大容量光回線はネットだけでなく、ケーブルTVなども含む、さまざまなデジタルコミュニケーションの社会基盤であり、このたびの先生の日本国際賞の受賞も当然なのであろう。

実は私は、多くの関係者と共に「発見と発明のデジタル博物館」構築事業（正式名称：卓越研究成果公開事業）で、末松先生から長い間ご指導をいただいている。この事業は、

電気技術史技術委員会と深い、長い関係があつて、その経緯については、昨年（2013年）11月号の会誌記事「卓越データベース」で紹介した。まさに先生の粘り強い、トップダウンのリーダーシップがあつて、可能になった事業である。今後も先生のお力で、大発展してゆくであろう。

この会誌記事には書かなかった歴史的事実を、ひとつ紹介する。当該記事の中で、「電力系統技術歴史ハイパーメディア作成WGの活動」として紹介した時代の話である。当時、関係者はボランティアとしてこのワーキング活動に携わり、興味深い成果の可能性がみえてきた。しかし可能性をかたちにするには、金が必要である。当時、技術史技術委員会の共同幹事であった鈴木浩氏（現在の委員長）と私は連れ立って、副委員長だった末松先生を訪問し、ご指導を仰いだことがある。

このテーマは、分野が限定されていることもあつて、当時はそれ以上発展させることはできなかった。しかし、末松先生が技術史技術委員会の委員長になられ、さらに電気系5学会の電気技術史特別委員会の委員長も務められるようになって、「5学会と国立情報学研究所が共同して、科研費を申請して、ウェブの中にデータベースを作ろう」というスケールが大きい話に発展していった。

それが、今の「発見と発明のデジタル博物館」につながっている。このデジタル博物館も、大容量通信技術が可能になっていなければ、ただのデジタル情報倉庫である。しかし、いま世界中のどこからでも、そして誰でもが、瞬時に利用できるようになっている。ありがたいことである。

## 末松先生の日本国際賞受賞をお祝いいたします 湘南工科大学 奥田治雄（電気技術史技術委員会委員）

光通信分野の国際的研究者であられる末松安晴 東京工業大学名誉教授が 2014 年日本国際賞を授与されました。常日頃、学会活動ほかで多大なご指導を受けているものとして大変な誇りであり、まことにおめでとうございます。

日本国際賞は国際社会への恩返しの意味で日本にノーベル賞並みの世界的な賞を作ってはどうかとの政府の構想で、松下幸之助氏の寄付の下、1985 年にはじまりました。今回の授賞式は天皇皇后両陛下、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官の列席のもと、4 月 23 日に東京大学伊藤国際学術研究センターで執り行われました。

私は先生から研究の専門分野でご指導を受けたわけではありませんが、先生が 2001 年度に映像情報メディア学会の会長をされた時に総務理事をしていた関係から大変お世話になりました。以来、先生が主導された電気系 5 学会による電気技術史特別委員会、卓越技術データベース推進委員会（現在の卓越研究成果公開事業）、7 学会によるオーラ

ルヒストリー推進委員会など、技術史関連の委員会に参加させていただきました。

中でも先生のご発案により 2006 年 9 月に開催された国際フォーラム「映像インターフェースの未来へ」は忘れることができません。このフォーラムは日本のテレビの父といわれる高柳健次郎が 1926 年にブラウン管上に「イ」の字を電子映像として世界に先駆けて表示して 80 年目にあたることを記念して、世界にアピールするために企画されました。海外から 2 名、国内から 6 名の映像関係技術者・研究者を迎えた講演会、5 名のパネリストによる討論が行われ、200 名を超える参加者で盛会のもと終了しました。このフォーラムを実施するにあたっては関係する学会や組織で実行委員会を結成し、多くの議論をしながら準備しました。このときの先生の熱意とリーダーシップは人を組織して動かすことの難しさとその解決への方策を見出すうえで大変な勉強になりました。先生のこのたびの受賞もこのような情熱のもとになされたものと納得できます。引き続きのご指導とますますのご活躍を祈念いたします。

### 電気技術史 第 64 臨時号

発行者 (一社)電気学会 電気技術史技術委員会  
委員長 鈴木 浩  
編集人 News Letter 編集委員会  
松本栄寿、鈴木浩、奥田治雄  
〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-2  
HOMAT HORIZON ビル 8F  
発行日 平成 26 年 5 月 7 日  
禁無断掲載 Copy right: 発行者